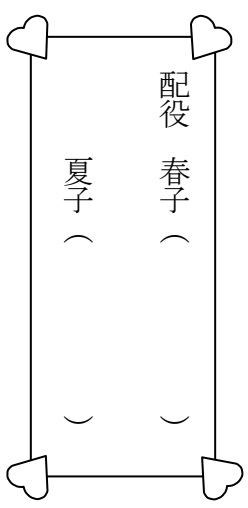


おばあちゃんのうつ病

(地域の草刈りの帰り道、春子の家の前で)



春子 「夏ちゃん久しぶりだね。元気だった?」

久しぶりじゃったなあ。元気しとったね?

会ったよ。

そういえば、こないだ、あなたのお義母さんに会ったわ。何か前より元気そびつくいいしたが。

いくつになったとかな?

うでびつくりしたわ。お義母さん何歳になったの?」

夏子 「今年で九十二歳になったのよ。」

春子 「へえ、九十二歳か!」

しちよいやったから

秋子 「私も、こないだ、お義母さんが庭で草取りをしたから、声かけたら、ニコニコしながらあいさつしてくれたのよ。」

じゃっとよ、元気やつどが〜

夏子 「そうなのよ、元気になってるでしよう。」

みたいやつどな。

春子 「前のことと思うと別人みたいだね。」

しつちよたけど、

夏子 「実はなあ、ずっと前から、内科で鬱状態ですと言われて治療してただけど、なかなか調子がよくなりなくてね。」

よくなりだね。

飯もいらんって言うて、

しちよったのよ。飯が欲しくなくて言うから、年に二回は入院してたのよ。」

されちよったよね。

秋子 「そういえば、昔はよく入院されてたよね。」

じゃつど。

夏子 「そうなのよ、それに『目がベチャベチャする！』言つて、近くの眼科を四軒も廻

言われつせえな。

つて診てもらったんだけど、『異常なし』言われてね。それでも本人は全然、納

せんでね。

得しなくてね。」

おかしか思つちよつても

いけんもなかつて

春子 「それは、自分でもおかしいと思つているのに、どこも悪くない言われたら、納得

できんよな〜

できないよね。」

じゃつど。

眠れんだの飯もいらんだの、

夏子 「そうなのよ。それで医者に行く度に、眠れないだの飯が欲しくないだの、身体

困らしちよつたわ。

がだるいのだの言つて、内科の先生を困らしてたわ。」

じゃつたな〜。

秋子 「それは夏ちゃんも病院通いで大変だったんだね。」

じゃつど。

夏子 「そうなのよ。それにお義父さんが亡くなった頃が一番ひどくてね、誰かが庭石を

盗んだとか、漬物を樽ごと盗まれたとか、庭に誰かがゴミを捨てに来るとか、言

つてね、ついに呆けがきたかと思つたわ。」

だったな〜

春子 「それは大変だったね……。」

おけんですよ〜。

夏子 「それで、お義母さんを一人にしておけないでしょ。同居して、食事や薬の用意を

したとよ。

私がするようにしたのよ。」

なつたとな〜。

秋子 「へえ。それで同居したらお義母さんは元気になったの？」

せんけど、

つけんぞ、じつとしちよつてな

夏子 「いや、入院はしなくなつたけど、一日中部屋でテレビもつけず、じつとしててね、

行つちよつた

あの頃、保育園に行つた娘が『お祖母ちゃんまた固まつてる』つてよく言つて

たわ。」

いづことね？

秋子 「固まってる？全然動かないっていうことかな？」

じやつど。

夏子 「そうなのよ。同居してからでも、病院に行くたびに、眠れんとか便が出んとか

増えつせえなあ。

とか色々言うから薬がだんだん増えてね。」

秋子 「薬もいろいろあるんだね」

じやついな。

夏子 「そうなんだよね。そのうち足元がふらつくわ、お茶を飲めばむせるわ深呼吸も

できんようになってな〜。

できないようになってね。夜中に覗いてみたら、時々息が止まっているし、もう

びつくいしてなあ〜

年やつでなあ

びつくりしてね。かかりつけの先生に相談したら『年だからなあ』と言われただ

な
長げなかとじやなかかと

けでね。もう長くないんじゃないかと思ったわ。」

やったねえ。

春子 「それは心配だったね。」

いかん

夏子 「このままじゃいけないと思って、お義母さんと主人を説得して、内科の先生に

いへんことしたとよ。

紹介状を書いてもらって、お義母さんを心療内科に連れていくことにしたのよ。」

秋子 「心療内科に？」

じやつど。

夏子 「そうなのよ。心療内科に行って相談したら、先生が症状に合う薬を考えてくれて

それからやつど。

それからのよ。」

夏子 「食欲が出てきて、だんだん元気になって気になってた症状はすっかりなくなって

よう見うちやつど。

最近は歌番組や水戸黄門のテレビをよく見ているわ。」

春子 「それは良かったなあ。元気がなって。」

じゃらいな。

別人のごたいよ。

夏子 「そうよね。同居を始めた頃を思ったら、別人みたいなのよ。昔『お祖母ちゃんが

固まってる』って言ってたあの娘が、『お祖母ちゃんは、いつも笑って幸せそう

言っちゃったわ。

でいいな』って言ってたわ。」

なつとやな〜

秋子 「うつ病は治らないと思ってたけど、ちゃんと治療したら元気になるんだね。」

らしかよ。

夏子 「うつ病って言っても人によっていろんな症状があるらしいのよ。それに今は

言わるつとよ。

三人に一人はうつ病になると言われているのよ。」

じゃらいな〜。人ごとじゃなかよな。

勉強せんといかんね

春子 「そうなの。人ごとじゃないんだね。うつ病のこと、しっかり勉強しないとけ

ないね。」

きとつたね。

夏子 「そういえば、今日、〇〇集会所でうつ病の話があるって回覧板がきてたね。

行つが。

みんなで聞きに行つてみようよ。」

じゃつど。

わからんもんねえ。

秋子 「そうだね。私だっついっ、うつ病になるかわからないもんね。」

じゃつどな。

勉強せんと。

春子 「本当にそうだね。しっかり勉強しないとね。それなら、私が大急ぎで準備して

行つて待つちよつてね。

迎えに行くから待つてね。」

(春子・夏子・秋子、帰っていく。)



